

科目名	PBL：CreativeSchool基礎編（総合系《価値創造論B》）
開講区分	第2クォーター
曜日・時限	火5
場所	眺望館1階Vルーム
授業のテーマ	<p>本授業は、問題の定義が不明確（悪定義）で、解決手段が不明確（悪構造）で、唯一最適解が存在するように設定されていない（悪設定）問題に対峙する際に必要な思考方法を習得し、新しい知を創造できる人を育成することを目指します。</p> <p>具体的には、論理的思考、システム思考、デザイン思考の3つの思考方法を習得し、グループワークを通じて思考方法を使いこなすための「形（かた）」を学びます。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考 筋道の通った思考、つまりある文章や話が論証の形式（前提－結論、また主張－理由という枠組み）を整えていること。 ・デザイン思考 デザイナーがデザインをするときの思考で、「Empathize（共感）」「Define（問題定義）」「Ideate（創造）」「Prototype（試作）」「Test（試験）」の要素からなるとされる。 ・システム思考 物事を要素間の関係性（システム）として捉えること。狭義では、因果ループ図を指す。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・論理的思考について理解し、使いこなすことができる ・システム思考について理解し、使いこなすことができる ・デザイン思考について理解し、使いこなすことができる ・グループワークで他者とコミュニケーションが取れる
授業の概要と計画	<p>第1回：オリエンテーション インTRODクション 論理的思考（演繹と帰納、事実と解釈）</p> <p>第2回：アイスブレイク 論理的思考</p> <p>第3回：デザイン思考（ブレインストーミングと親和図法を使って）</p> <p>第4回：デザイン思考（強制連想法とプロトタイピングを使って）</p> <p>第5回：デザイン思考（ユースケースを使って）</p> <p>第6回：システム思考（要求機能分析とシステムアーキテクチャを使って）</p> <p>第7回：システム思考（因果ループ図と顧客価値連鎖分析を使って）</p> <p>第8回：思考プロセスデザイン（内容は変更することがあります。）</p>
成績評価方法	授業中のグループワーク参加状況(60%)と期末レポート(40%)により総合的に評価します。期末レポートが期日までに提出がない者は、単位認定の対象となりません。
成績評価基準	授業中のグループワーク参加状況(60%)と期末レポート(40%)により総合的に評価します。期末レポートが期日までに提出がない者は、単位認定の対象となりません。

履修上の注意 (関連科目情報)	<p>この授業の定員は約40名です。履修を希望する学生は、5/27までに、担当教員・鶴田 (tsuruta@kobe-u.ac.jp) まで以下の情報をメールで送付してください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 件名：2025価値創造論B 受講希望 ・ 文章中に、氏名・学部・学籍番号 <p>なお、学部生で教養科目としての単位認定を希望する場合は、メールの文章中に「単位認定希望 (V.School生)」と記入してください。また、教養科目としての単位認定が不要で、V.Schoolとしての受講認定のみを希望する場合は「単位認定不要 (V.School受講認定のみ希望)」と記入してください。大学院生の場合は、「大学院生 (V.School生)」と記入してください。</p> <p>ただし、履修希望者が定員を超えた場合は、「受講エントリーシート」(後日送付)により選考する可能性があります。ディスカッション形式の演習を含むため基本的に全回出席できる学生が対象です。</p> <p>この授業の関連科目は、夏季集中講義予定の「レジリエント社会の構築を牽引する起業家精神育成プロジェクト(価値創造論C)」です。本授業で学んだ思考法をフィールドで課題解決型学習で実践することができます。</p> <p>この授業は、1年次学生を対象としていますが、2年次以上も履修できます。</p> <p>この授業では、遅刻、途中入場・途中退室は厳禁です。</p>
事前・事後学修	特にありません。
オフィスアワー・連絡先	<p>鶴田宏樹 (つるた ひろき)</p> <p>自然科学総合研究棟3号館4階415</p> <p>Tel: 078-803-5946</p> <p>オフィスアワー：随時 (前もってメールでアポをとってください)</p> <p>mail: tsuruta[at]kobe-u.ac.jp</p>
学生へのメッセージ	<p>一人ではできないことも、仲間がいればできることがあります。文系理系関係なく協働することで生まれる多様性は、思考の幅を広げ、優れたアイデアにつながります。グループワークを通じて、多様な仲間をたくさんつくってください。</p> <p>この授業は、たくさんの学生と議論しながら一緒につくっています。自分たちは何を求めているのかを論理的に説明し、授業内容をデザインし、授業の価値を考えてくれる仲間を募集しています。</p>
今年度の工夫	<p>「考え方」の基盤となる知識を習得するためにグループワークをファシリテートする。議論・討論を通じて論理的思考を身につけさせる。</p> <p>メッセージの重点の確認、Q & Aセッションにおける双方向性コミュニケーションの促進に留意する。</p>
参考書・参考資料等	
タイトル1	Creative Confidence: Unleashing the Creative Potential Within Us All
著者名1	David Kelley and Tom Kelley
出版者1	William Collins
出版年1	2013
ISBN1	038534936X
タイトル2	クリエイティブ・マインドセット 想像力・好奇心・勇気が目覚める驚異の思考法

著者名2	デヴィッド ケリーら
出版者2	日経BP社
出版年2	2014
タイトル3	システム×デザイン思考で世界を変える 慶應SDM「イノベーションのつくり方」
著者名3	前野隆司ら
出版者3	日経BP社
出版年3	2014
ISBN3	4822249948
キーワード	論理的思考 デザイン思考 システム思考 課題解決